

令和元年度
第3回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化処理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：令和2年1月10日（金） 7:30～16:45

場所：福島県双葉郡双葉町細谷地区
双葉町仮設灰処理第一施設及び双葉町仮設灰処理第二施設

出席委員（敬称略）

公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長	荒井 喜久雄
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長	大迫 政浩
岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	川本 克也
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 基盤技術・物質管理研究室 室長	倉持 秀敏
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員	高田 光康
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	高岡 昌輝
東北大学大学院 環境科学研究科 教授	吉岡 敏明
京都大学大学院 工学研究科 都市環境工学専攻 教授	米田 稔

オブザーバー（敬称略）

福島県生活環境部 中間貯蔵施設等対策室	大町 仁志
国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター	有馬 謙一

議事要旨

I 本日の議事

1. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2業務について

II 検討内容

1. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その1業務について
新日鉄・クボタ・大林・TPT 特定共同企業体（以降、新日鉄・クボタ・大林・TPT JV と記載）の案内により、仮設灰処理施設の視察を行った。

(1) 水砕スラグ用の冷却水について

委員より、水砕スラグ用の冷却水はどのように管理をするか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、生成物搬出装置内の水は槽内に貯めたままではなく循環をする。循環水について放射性物質のモニタリングを行い、管理基準を設定して対応を定

めているため、それに沿って対応していく、との回答があった。

(2) 補修時における放射線被ばく防止対策について

委員より、溶融炉内などの補修時はどのような放射線被ばく防止対策をとるか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、事前に放射線量を測定したうえで、時間管理などによって被ばく防止対策をとる、との回答があった。

(3) 投入リフト上部の安全対策について

委員より、投入リフト上部の開口部に対し、どのような安全対策をとるか、との質問があった。新日鉄・クボタ・大林・TPT JV より、投入リフトから乗り継ぐ搬送コンベヤの脇に手摺があり、通常は開口部に人が近づくことはないが、人が立ち入って作業する場合を想定し、安全対策を検討する、との回答があった。

2. 双葉町減容化施設（中間貯蔵施設）における廃棄物処理その2 業務について

JFE・前田特定業務共同企業体（以降、JFE・前田 JV と記載）の案内により、仮設灰処理施設の視察を行った。

(1) フレキシブルコンテナの処理について

委員より、フレキシブルコンテナはどのように処理するか、との質問があった。JFE・前田 JV より、フレキシブルコンテナをクレーンで吊った状態で内容物を取り出し、その後、内容物を取り出したフレキシブルコンテナを焼却炉にて焼却処理する、との回答があった。

(2) 溶融炉へのブリケットの投入量について

委員より、処理対象物を圧縮成型したブリケットの投入量はどのように調整するか、との質問があった。JFE・前田 JV より、炉内の温度と出さい物の状況を確認しながら投入量を調整するが、設計上、ブリケットの投入量はほぼ一定である、との回答があった。

以上